

授業概要

子どもを理解するためには、子どもの発達を知るだけでなく、子どもを取り巻く社会・文化的な要因を考える必要がある。そこで本演習では、発達心理学の視点から人間を理解し、保育や教育の専門職として必要な知識を身につける。春期は発達心理学において注目されているテーマについての文献を講読する。秋期は春期で学んだことをもとに、各自で興味・関心のある事柄について先行研究を調べて発表を行う。次年度の専門演習に向けて問題意識を持ち、研究計画を立てる。

授業ではグループワークやディスカッションを積極的に取り入れ、活発な意見交換を行う。

授業計画

第 1 回	春期オリエンテーション	第 16 回	秋期オリエンテーション
第 2 回	子どもの発達を知る①運動領域	第 17 回	前期の復習
第 3 回	子どもの発達を知る②認知領域	第 18 回	論文の検索方法と読み方
第 4 回	子どもの発達を知る③言語領域	第 19 回	論文講読①調査法論文
第 5 回	文献講読：遺伝と環境について	第 20 回	論文講読②観察法論文
第 6 回	文献講読：非認知能力について	第 21 回	論文講読③面接法論文
第 7 回	文献講読：虐待と発達について	第 22 回	各自で興味・関心のあるテーマを絞る
第 8 回	文献講読：「気になる」子どもとは何か	第 23 回	先行研究を調べる
第 9 回	文献講読：定型発達と非定型発達	第 24 回	問題意識を明確にする
第 10 回	グループワーク①（興味・関心を絞る）	第 25 回	発表の準備をする
第 11 回	グループワーク②（発表の準備をする）	第 26 回	個人発表①
第 12 回	グループ発表①	第 27 回	個人発表②
第 13 回	グループ発表②	第 28 回	個人発表③
第 14 回	グループ発表③	第 29 回	専門演習に向けて研究計画を立てる
第 15 回	春期のまとめ、意見交換	第 30 回	秋期のまとめ、振り返り

到達目標

- ・文献講読を通して、保育や教育の専門職として必要な子どもの発達に関する知識を得る。
- ・発達心理学に関する論文の講読を通して、子どもを取り巻く環境について理解する。
- ・自分の興味・関心のあるテーマについて先行研究を調べ、問題意識を持ち、研究計画を立てる。

履修上の注意

- ・遅刻や欠席は原則としてしないこと。やむを得ない場合は事前に連絡すること。
- ・授業には積極的な態度で参加し、常に相手を思いやる気持ちを持つこと。

予習・復習

- ・発表者は事前にレジュメまたは PowerPoint を作成し準備をする。それ以外の参加者にも、レポートなどが課される。
- ・授業で扱う文献は事前に目を通したり、後で読み直したりして知識の定着を図る。

評価方法

- ・授業への参加態度（40%）、発表（40%）、ワークシートやレポートなどの提出物（20%）で評価する。

テキスト

- ・授業内で指示する。
- ・その他必要に応じて、資料を配布する。

授業概要

- ・幼稚園教諭、保育士の資格取得に向け、保育とは何か、そのために必要な要素とは何か、保育者の資質とは等について考察し、保育の方法等の基礎的な知識や技能を学ぶ。そして、就学前の乳幼児教育（保育）の在り方について考察する。世界の保育（乳幼児教育）方法についても、基本文献から学ぶ。
- ・後半は専門演習に向け、各自がテーマを決め、先行文献、参考文献・関連資料を読み解き、まとめて発表しよう。その際の小論文の作成方法や、プレゼンテーションの方法、質疑応答等、実践を通して研究し発表することについて学ぶ。

授業計画

第 1 回	ガイダンス①	第 16 回	ガイダンス②
第 2 回	保育所保育指針の概要	第 17 回	研究テーマの設定方法
第 3 回	幼稚園教育要領の概要	第 18 回	グループで研究テーマを探る
第 4 回	幼保連携型認定こども園教育・保育要領の概要	第 19 回	文献の検索方法
第 5 回	保育という営み	第 20 回	レポート作成の方法
第 6 回	保育に必要な要素	第 21 回	グループの研究テーマの設定
第 7 回	保育者の資質	第 22 回	小論文作成の方法
第 8 回	保育の方法①（基本）	第 23 回	グループ研究①
第 9 回	保育の方法②（保育園）	第 24 回	グループ研究②
第 10 回	保育の方法③（幼稚園）	第 25 回	グループ研究③
第 11 回	保育の方法④（認定こども園）	第 26 回	プレゼンテーションの方法・質疑応答について
第 12 回	世界の保育①（フィンランド・他）	第 27 回	発表準備
第 13 回	世界の保育②（アメリカ・他）	第 28 回	発表①
第 14 回	世界の保育③（フランス・他）	第 29 回	発表②
第 15 回	春期のまとめと意見交換	第 30 回	振り返りとまとめ

到達目標

- ・保育についての研究テーマの設定や検討・考察の方法について体験的に習得する。
- ・基本的な文章作成、ならびに調査・研究の方法について習得する。
- ・意見交換や質疑応答を通して、自分の意見を論理的に説明できるようにする。

履修上の注意

- ・積極的な、授業態度を求める。（遅刻・欠席は原則不可とする。理由のある方は事前に連絡すること。）
- ・前半は、授業内容について話し合い、まとめをレポートにして提出する。
- ・後半は、主体的に研究を進め、発表に向けてのスキルを獲得する。

予習・復習

- ・課題への予習を行い、配布資料の整理とその日の復習をしておく。
- ・発表に向けて、自主学習を進んで行う。

評価方法

- ・出席状況（30%）、授業態度・課題や授業への積極性（20%）、研究発表や提出物（50%）、以上の内容から総合的に判断する。

テキスト

- ・授業内で指示する。
- ・その他必要に応じて、資料を配布する

授業概要

「子どもと家族」をとりまく社会状況について、さまざまな観点から学び、支援のあり方を考えていきます。同時に3年次以降の専門的な研究をすすめるうえで必要となる、論文作成のための知識や作法を身につけます。

前期は、家族社会学の基礎的な文献をとりあげ、テキストの読み解き方、参考文献や関連資料の探し方、レジュメの作成方法、プレゼンテーションの方法、質疑応答におけるマナーやルールなど基本的なことを学びます。後期はそれらを活かして、仲間と協力しながらテーマセッションやグループ研究に取り組みます。また2年次以降の実習において必要となる文章力の向上を目指し、文章実践のトレーニングも組み込む予定です。

授業計画

第1回	オリエンテーション～ゼミの作法	第16回	後期のすすめ方
第2回	ゼミメンバーとの交流	第17回	文章実践トレーニング1
第3回	アカデミックスキルズって何？	第18回	文章実践トレーニング2
第4回	レジュメの作成と報告の方法	第19回	文章実践トレーニング3
第5回	テキストを読み解く1	第20回	テーマセッション1
第6回	テキストを読み解く2	第21回	テーマセッション2
第7回	テキストを読み解く3	第22回	テーマセッション3
第8回	参考文献の探し方	第23回	テーマセッションまとめ
第9回	関連資料の探し方	第24回	グループ研究1
第10回	文献報告に挑戦1	第25回	グループ研究2
第11回	文献報告に挑戦2	第26回	グループ研究3
第12回	文献報告に挑戦3	第27回	グループ研究4
第13回	文献報告に挑戦4	第28回	プレゼンテーションの方法
第14回	文献報告に挑戦5	第29回	研究成果報告会
第15回	後期に向けて	第30回	まとめ～3年生にむけての課題

到達目標

「子どもと家族」をとりまく現代社会の問題について理解を深める。

3年次以降の専門的な学習に必要な知識や態度を身につける。

自分の研究関心のありかを明らかにする。

文章を書く練習をし、レポート作成や実習日誌作成のための力をつける。

履修上の注意

楽しく意欲的に学ぼうとする態度を求める。

課題や報告に積極的に取り組むことを求める。

仲間と活発に議論する態度を求める。

予習復習

報告者は、文献を読み、レジュメを作成するなど、報告準備をする。

報告者以外の参加者は、文献を読んだうえで、質問やコメントを準備してくる。

テーマセッションやグループ研究においては、各自が毎回、作業を分担する。

評価方法

出席がもっとも重要（50%）。さらに、ゼミでの報告態度や報告内容（30%）、議論への参加態度（10%）、課題レポート（10%）等で、総合的に判断する。

テキスト

取り上げるテキストや文献については、初回のゼミで参加者の興味・関心を確認したうえで、相談して決める。

授業概要

本授業は、小学校教員志望の学生を対象とし、各種の運動の指導方法に迫ることをとおして、基本的な研究方法を知ることとする。はじめに、これまでの体育・保健体育授業についてのディスカッションから、体育科における指導上の問題点を見出す。次にスポーツ運動学と体育科教育学の知見から問題を解決するための指導理論・方法とその効果の検証方法を指導する。指導方法演習では、先行研究から指導方法を検討して運動指導を試み、問題解決に向けてのディスカッションから指導方法の効果と改善策を検討する。指導方法の計画立案・指導の実施・効果の検討・考察といった研究方法の一連の流れを理解することができるように指導する。

授業計画

第 1 回	オリエンテーション	第 16 回	指導方法の確認・効果検証の方法
第 2 回	体育科の目的と現代的課題	第 17 回	指導方法演習①：陸上運動「走り幅跳び」
第 3 回	体育科の目標と内容	第 18 回	ディスカッション①
第 4 回	文献抄読①：ホイジंगाとカイヨワの遊び	第 19 回	指導方法演習②：陸上運動「走り高跳び」
第 5 回	運動指導方法の基礎	第 20 回	ディスカッション②
第 6 回	文献抄読②：運動習熟論	第 21 回	指導方法演習③：器械運動「マット運動」
第 7 回	文献抄読③：運動技術論	第 22 回	ディスカッション③
第 8 回	文献抄読④：運動観察論-自己観察	第 23 回	指導方法演習④：器械運動「跳び箱運動」
第 9 回	文献抄読⑤：運動観察論-他者観察	第 24 回	ディスカッション④
第 10 回	効果検証の方法①：各種の質問紙調査	第 25 回	指導方法の効果検証
第 11 回	効果検証の方法②：運動能力調査	第 26 回	発表資料の作成の仕方
第 12 回	文献抄読⑥：体育科における教材・教具論	第 27 回	研究発表資料の作成①：発表資料・原稿の作成
第 13 回	文献抄読⑦：体育科における ICT 活用	第 28 回	研究発表資料の作成②：発表資料・原稿の修正
第 14 回	指導方法の検討①：文献抄読、検討	第 29 回	研究発表
第 15 回	指導方法の検討②：方法の修正	第 30 回	授業のまとめ・専門演習に向けて

到達目標

○これまでの運動・スポーツ経験をもとに、運動の指導上・学習上の問題点についての考えをもち、スポーツ運動学や体育科教育学の知見をもとに指導方法を追究することができる。

○具体的な指導方法の計画立案・指導の実施・効果の検討と考察といった研究方法を理解することができる。

履修上の注意

○第 1 回では本授業の概要を伝え、指導方法演習の役割分担をするため、必ず出席すること。

○他の授業との調整により、指導方法演習の内容・順序を変更する可能性がある。

○秋期の指導方法演習は、多目的ルームにて実技を伴うため、室内用シューズと運動に適した服装で授業に臨み、ピアスや指輪などの宝飾品を外して自己管理しておくこと。また、飲料を準備しておくこと。

○体調不良やケガ、その他の理由によって実技ができない場合は、遠慮なく必ず申し出ること。

予習・復習

○次時の授業に向けて必要な資料を事前に配付するので、熟読した上で自身の意見をもって授業に臨むこと。

○役割を担った運動指導方法について、事前に学習して演習に臨むこと。

○演習とその後のディスカッションの際に学んだ事柄を研究発表資料の作成に活かすこと。

評価方法

○担当する運動内容の指導方法についての事前学習内容：30%

○各回のディスカッション内容：20%

○研究発表：50%

テキスト

- ・教科書名：小学校学習指導要領解説体育編
- ・著者名：文部科学省
- ・出版社名：東洋館出版社
- ・出版年 (ISBN)：2018 年 (978-4-491-03467-6)

授業概要

「子どもの貧困」「児童虐待」「ヤングケアラー」「ひとり親家庭」など、子どもや若い世代におきている問題を把握し、理解を深め、興味・関心を高めていく。春期では「子供の生活状況調査の分析」報告書と「医療機関における被虐待児童の実態に関する調査」報告書を中心に子どもの貧困と被虐待児の状況について学び、解決に向けて必要な取り組みについて検討する。秋期には児童養護施設での支援やケアについての文献や子ども食堂にかかわる文献を読み、学びを深める。さらに各自の興味がある問題を取りあげ、解決や専門職のかかりについて考えていく。また、履修者の希望や興味・関心にもとづき、児童養護施設、障害者施設あるいは子ども食堂といった、支援の現場への見学も実施したい。

キーワード：子どもの貧困、児童虐待、児童養護施設での支援・ケア、地域子育て支援、子ども食堂

授業計画

第 1 回	春期オリエンテーション	第 16 回	秋期オリエンテーション
第 2 回	「子供の生活状況調査の分析」報告書	第 17 回	児童養護施設での支援についての文献
第 3 回	「子供の生活状況調査の分析」報告書	第 18 回	児童養護施設での支援についての文献
第 4 回	「子供の生活状況調査の分析」報告書	第 19 回	児童養護施設での支援についての文献
第 5 回	「子供の生活状況調査の分析」報告書	第 20 回	子ども食堂についての文献
第 6 回	「子供の生活状況調査の分析」報告書	第 21 回	子ども食堂についての文献
第 7 回	「医療機関における被虐待児童の実態に関する調査」報告書	第 22 回	子ども食堂についての文献
第 8 回	「医療機関における被虐待児童の実態に関する調査」報告書	第 23 回	個人発表にむけて
第 9 回	「医療機関における被虐待児童の実態に関する調査」報告書	第 24 回	個人発表
第 10 回	「医療機関における被虐待児童の実態に関する調査」報告書	第 25 回	個人発表
第 11 回	「医療機関における被虐待児童の実態に関する調査」報告書	第 26 回	個人発表
第 12 回	報告書まとめ / 見学の事前学習	第 27 回	見学の事前学習
第 13 回	施設あるいは支援現場見学（学外）	第 28 回	施設あるいは支援現場見学（学外）
第 14 回	施設あるいは支援現場見学（学外）	第 29 回	施設あるいは支援現場見学（学外）
第 15 回	見学まとめ / 春期まとめ	第 30 回	見学まとめ / 秋期まとめ

到達目標

- ・子どもや若い世代に起きている問題への関心を高め、解決に向けての取り組みや支援について考える力をつけていく
- ・報告書を読むことで統計情報の読み方を理解し、報告書全体の理解を深めていく
- ・発表する力、発言する力、文章をまとめる力をより向上させていく

履修上の注意

- ・子どもや若い世代に起きている問題や解決について、興味・関心があることを前提とする。
- ・報告書の内容について順番を決めて発表する。さらに、その内容についてグループディスカッションを行うので、積極的な参加を求める。
- ・遅刻、欠席はしないこと。

予習・復習

演習内で指示する

評価方法

発表の内容・充実度 40%、期末レポート 40%、授業への参加度（発言回数、内容など）20%をふまえ、評価する。

テキスト

報告書は Web に公開されているものを用いる。
その他、必要に応じて、指示する。または授業時に資料を配布する。